

インターバンクの声（2014年12月25日）

クリスマス休暇入り前のニューヨーク市場で相場が大きく反応したのが、米労働省の新規失業保険申請件数の発表時。昨晚、瞬間の値動き幅が一番大きくなったのは、唯一この時だけと言っても過言ではないが、それでもドル円で10銭足らず、ユーロでも10ポイント程度の反応だった。クリスマス休暇と週明けにケース・シラー住宅価格や消費者信頼感指数の発表もまだあるが、今年イエレンFRB議長が「金融政策の参考材料にするのは雇用統計だけではない」と幾度か指摘したにも関わらず、結局は最後まで月一度の雇用統計と毎週水曜日発表の新規失業保険申請件数の数字に一喜一憂する状態が続いた。来年に入ってもFRBの利上げ開始時期を探るため、市場は雇用統計を最も参考にしやすい指標にするのは間違いなさそうだ。日本では新年2日は三が日休みのため為替相場にとっても円の受け渡しができない日となっているが、グローバルにはドルなどほとんどの通貨が決済可能なので、外国勢は29日以降、2015年入りと認識した態度で臨んでくることを覚悟しておいたほうが良いだろう。今日は東京市場が閉まった後は欧米市場がほぼ完全に休場になるため、午後3時頃からはレートの配信すら止まることになりそうだ。年一回のロンドン、ニューヨーク時間に相場を気にせずに過ごせる夜を楽しみたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。